

第6回 学研高山地区第2工区まちづくり検討有識者懇談会会議録（要旨）

日 時 平成29年8月1日（火） 午前10時00分から12時15分

場 所 生駒市コミュニティセンター203・204会議室

出席者

（参加者）村橋正武、伊藤忠通、増田昇、松中亮治、横矢直和、中川雅永、
山本昇

（事務局）上村都市整備部長、北田都市整備部次長

岸田都市計画課長、有山都市計画課課長補佐

矢島学研推進室学研推進係長、松下学研推進室学研推進係員

案 件

テーマ「学研高山地区第2工区まちづくり案について」

（1）学研高山地区第2工区まちづくり案について

（2）学研高山地区第2工区のまちづくりにおける将来像について

（3）その他

配付資料

資料 学研高山地区第2工区まちづくり案

学研高山地区第2工区まちづくり案 別冊資料

開 会

座長挨拶

- ・これまでの懇談会の意見を取りまとめた「学研高山地区第2工区まちづくり案」が本日のテーマとなっている。事務局から説明の後、ご意見、ご質問をいただきたい。

案 件

以下の案件について、資料に基づき事務局から説明後、参加者による意見交換。

- (1) 学研高山地区第2工区まちづくり案について
- (2) 学研高山地区第2工区のまちづくりにおける将来像について
- (3) その他

意見交換の内容

(1) 学研高山地区第2工区まちづくり案について

＜タイトル等について＞

- ①地権者の意向や市民の意見を聴取してまとめるのであれば「まちづくり案」でも良いが、とりまとめたものをこれから考えて行くたたき台とするなら、有識者懇談会の中の意見を取りまとめたものとして「学研高山地区第2工区まちづくり検討有識者懇談会とりまとめ」とすべき。「まちづくり案」にすると、マスタープランに近い名称になってしまう。

＜第2工区の役割・まちづくりの方向性＞

- ②「都市政策をめぐる最近の動き」の中で「都市緑地法等の一部改正」とあるが、生産緑地法の改正や、新たな用途地域についての記載であるので、「都市計画法等の改正」に変更すべき。
- ③けいはんな学研都市の動向として、「未整備地区である高山地区第2工区の存在意義は今後の学研都市の発展を考えると非常に大きい」とあるが、存在意義が大きいということを明確にする表現とすべき。

＜土地利用の方向性＞

- ④「都市と農の共生」ではなく、「都市と自然環境の共生」という表現に統一すべき。

＜交通ネットワーク形成の方向性＞

- ⑤広域交通ネットワークの考え方で、関西空港だけでなく、伊丹空港も多く利用されており、最近では、東京方面から来る研究者のほとんどが伊丹空港を利用しているので、伊丹方面へのアクセスも意識した表現とすべき。
- ⑥学研北生駒駅へのアクセスについては、駅前の整備も含めて、一体的な整備ができれば良いと考える。

＜土地利用構想案＞

- ⑦前回の懇談会意見を受けて、「学術研究連携ゾーン」という名称に変更しているがイメージが湧いてこない。名称の変更を検討してほしい。

＜まちづくりに向けた課題＞

- ⑧基本計画的な課題整理と、基本構想的な課題整理が入り交じっている。1番の後に5番、6番をもってくるなど、順番を入れ替えたから見やすくなると思う。
- ⑨地権者の意向集約と事業化推進が1つのくくりで記載されているが、両者は別項目であり、分けた表現とすべき。
- ⑩事業化推進等に民間事業者の参画とあるが、学研都市は企業誘致できる土地が不足状況にあり、民間事業者に学研都市には土地が無いと認識されては困る。事業者に目を向けてもらうため、学研都市のポテンシャルのPRなどについても記載が必要と考える。
- ⑪各所に段階的整備という表現があるが、段階的整備は、マスタープランがあり、全域を分けて開発するという概念である。本懇談会で議論してきたのは、段階的開発ではなく、需要に応じて時間の変化とともに、地権者の意向や、環境、社会経済情勢の動向に応じて創り変えていく「新しい計画論」であるため、順応的で、柔軟に対応するという意味で、「順応的・段階的整備」と表現すべき。

＜今後の取組み（事業化ロードマップ）＞

- ⑫「マスタープランの策定」と「地権者の意向集約等・事業化推進等」の両項目に「意向集約」という同内容の記載があり分かりづらい。表現を見直すべき。

<用語解説について>

- ⑬「ことづくり」の解説に「製品をつくること」との記載があるが、つくられた製品に付いてくる付加価値、もの以外の付加価値のことを「ことづくり」というので、表現を見直すべき。「製品」であればハードウェアのイメージが非常に強いので、「サービス」と表現した方が良い。

<その他（再編集）について>

- ⑭ 1 ページに多くの情報が記載され、見にくいページがあるのでページを分けるなど、見やすい形に整理した方が良い。

（２）学研高山地区第２工区のまちづくりにおける将来像（まちづくりのテーマ）について

- ①副題が「超スマート社会の実現・貢献するまちを目指して」となっているが、実現と貢献が「・」でつながっていて意味が分かりにくい。第２工区自体の超スマート社会の実現や、産業として貢献するということも含めて表現するのであれば、「超スマート社会をリードするまちを目指して」に変更すべき。
- ②第１工区の先端大学を、第２工区のまちづくりのテーマとして表現するであれば、本文の「はじめに」のところに、第１工区や精華・西木津地区を含めた形で、まちづくりを検討しているということを追記すべき。

（３）その他

<とりまとめの報告会について>

- ①懇談会参加者の出席のもと、地権者や市民に対する報告会を開催する。
- ②今後の具体的なまちづくりの取り組みは、地権者や市民も自らの関心事として、検討し、取り組んでいただきたいと思う。そのことを有識者懇談会から投げかけるような報告会として、可能であれば市ではなく有識者懇談会が主催となり開催したいと考えている。

<修正後の確認について>

- ・ 本日の意見を受けて、事務局で再度整理をし、座長に修正内容を確認いただいたうえで、最終案を皆様にメール等で配信する。